

1 湯川黒松林



金森洋物店や金森倉庫の創業者初代渡辺熊四郎が私財を投じ明治22年(1889)から11年間にわたり植林した本道最初の防風防砂林。

2 湯巡り舞台「足湯」



平成19年(2007)にオープン。鮫川沿い市電湯の川温泉電停のそば。歩き疲れた足の癒し場。一度に20人程度が利用でき、24時間無料で楽しめる施設。

3 湯の川球場跡



昭和9年(1934)11月8日に世界最強と言われた全米選抜チームと全日本選抜チームとの第2回日米野球大会が湯の川球場で行われた。米軍はベープ・ルース、ルー・ゲーリックらの強豪選手、対する日本チームは市岡忠男総監督、主将久慈次郎の下、対戦に当たった。

4 旧戸井線



戸井線は、戦時中の昭和12年(1937)に軍事物資輸送目的に建設が開始された鉄道路線で、その後、資材不足により中止され未完成となった。現在は、遊歩道としてその一部が活用されている。

5 湯川寺(とうせんじ)の三十三観音



湯川寺にある観音像はもともと函館山に安置されていたもので、函館山が要塞となったときの裾野に下ろされた。大正3年(1914)に湯の川村各地に遷座したが、道路拡張工事等で管理者がいなくなった観音像が多くなったため、湯川寺三世住職が引き取り現在の位置へ安置された。

6 湯倉神社



500年以上前のこと、きこりが両腕の関節を痛めた際、沸き湯で湯治し完治。そのお礼に薬師如来を刻み形ばかりのお堂を建てて安置したのが、今日の温泉の始まりであり湯倉神社の起源であるという伝説がある。

7 湯の川温泉発祥の地碑



昭和22年(1947)に湯の川倶楽部が建てたもの。その碑の裏には湯の川温泉で千勝丸(松前藩主松前高広)が湯治したことが建立の理由として書かれている。

8 函館市熱帯植物園



温室には約三百種・約三千本の植物を展示しているほか、足湯・手湯付の休憩所があるなど源泉地ならではの楽しみが味わえる施設。

湯の川あったか散歩道 ~知られざる湯の川の歴史を訪ねて~

所要時間 110分 距離 4.1km 消費カロリー 330kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



大正9年(1920)錦輝館(きんきかん)の館主若見永次郎が、現在の市民会館付近に湯の川新世界という娯楽場を建設。遊園地、動物園、人工の滝などがあり市民の憩いの場であったようです。

さまざまな地元の店が並び湯川商店街。

千人風呂(現竹葉新葉亭)
野外に温泉があり、その大きさを千人風呂と呼ばれていた。

8月の「湯の川温泉花火大会」は灯籠流しが行われ、夏の風情が楽しめます。

ラグビー場があるほか、ジョギングコースとしても親しまれています。飛行機の発着が間近に見えるスポットとしても人気です。

温泉に入るサル(12月~5月上旬)